


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和2年 2月 2日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
大分県高崎山、香川県小豆島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
高崎山、および小豆島のニホンザルの調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和2年1月26日 ~ 1月30日 (5日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
高崎山自然動物園、小豆島 銚子溪 お猿の国 自然動物園
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>私たちは昨年、小豆島のニホンザルにおける珍しい事例を観察した。これに似た事例が他の調査地でも観察されているのかを確認したところ、2009年に大分県高崎山でも似た事例が確認されていることがわかった。そこで本出張では、高崎山、および小豆島の野猿公苑関係者および研究者とミーティングを行い、観察時の状況を共有することを目的に行った。</p> <p>今回高崎山で確認を行ったところ、私たちが小豆島で観察した事例は、高崎山で見られた事例と酷似していることが確認できた。論文への投稿を予定しているため、状況の詳しい記述は控えるものの、私たちの発見は、ニホンザルのアロマザリング行動が生起する社会的、生理的背景を理解することに貢献できると考えられた。</p> <p>私はこれまで小豆島のニホンザルを研究してきた中で、他の調査地である高崎山のニホンザルを見るのは楽しみであった。実際観察してみると、高崎山よりも小豆島のニホンザルの方が、群れの個体の凝集性が高いように感じた。特に高崎山のニホンザルは、どれだけ寒くてもまとまった大きなハドルにならず、小豆島のニホンザルとの大きな違いを感じた(図1)。今回の観察経験を生かし、今後も小豆島でニホンザルの調査を続けていきたい。</p>

図1：高崎山のニホンザルは大きなハドルを形成しなかった
6. その他 (特記事項など)
本出張は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、下村忠俊氏、栗田博之氏をはじめとした高崎山自然動物園、および銚子溪自然動物園お猿の国の皆様に感謝申し上げます。